

保育の方法 ～総合的な保育～

保育の課題

0、1 歳児	0 歳児	一人ずつ丁寧に関わる保育・・・受容（自己肯定感）
	1 歳児	自我を大切にする保育・・・自己主張、自己発揮
2 歳児	みんなでやる楽しさやルールに気付かせる保育	
3、4、5 歳児	主体性を育てる保育	
	自発的な遊びを通した保育	
	一人ひとりの課題を大切にする保育	

3つの発達段階（ステージ）

クラスは年齢別に6クラスで編成されています。しかし、当園では乳幼児期の6年間で、まず次の3つの生活ステージに大きく分けて把握しています。

0～1 歳児クラス

この発達の段階では、十分に行き届いた養護環境が重要な意味をもち、くつろいだ雰囲気の中かで自発性の基礎を培うような保育に重点を置きます。（発達の状態に応じて、0 歳児クラスと1 歳児クラスが連動した保育集団を作ります）

2 歳児クラス

この発達の段階では、自我の芽生えに伴う自己活動を十分に保障する環境の構成が大切になります。このため2 歳児クラスは、独立した部屋になっています。

3～5 歳児クラス

この発達の段階では、自発的な自己活動と友だちの関わりが著しく発達します。そのため、子ども相互の関係づくり、とくに社会性を伴う集団活動の意義が大きくなります。個人の特性も差異が大きくなるため、一人ひとりの発達課題をはじめ、興味・関心（情意面）、習熟度（認知面や技能表現面）などに応じた「選択の機会」を多く用意しています。

生活のリズムを大切に

生活の主要な3要素といえる「遊び」「食事」「お昼寝」の遊食寝が、どのクラスも独立したスペースで行われます。これによって、一人ひとりの生活リズムを保障し、安心感や満足感、達成感をともなった自発的な活動を促すことができるようになります。また、いずれの場合も、家庭的な親しみとくつろぎの場となるようにしています。

異年齢集団の中での体験

年齢別のクラスを基盤にしながらも、0～1歳クラスと3～5歳クラスは異年齢の中で、一人ひとりの発達課題に沿った体験ができるようにしています。また、大きいクラス（主に年長児）は小さいクラス（2歳児以下）で過ごすお手伝い保育を行う場面もあります。

自発的な遊びと主体的な活動

子どもが自発的で意欲的な遊びや活動ができるように、一人ひとりの発達課題に対応した空間（ゾーン）を用意し、興味や関心等によって自分自身で遊びや活動を選択できます。

食を通じた保育

食事は基本的な習慣を身につけ必要な栄養やエネルギーを満たす養護としての役割にとどまりません。授乳、離乳食、昼食、間食、水分補給は豊かな食文化や知恵の伝承でもあります。

また、クッキングなど「食をつくる活動」を通じて、社会事象への関心を広げるきっかけとしています。できるだけ食材の産地を子どもたちに伝えるなど、子どもたちが必要な食文化の体験ができるようにします。

子どもにとっての食事は、心身の発達だけでなく、情緒面の発達にも影響を与えます。また最近では、一人で食べることを好む「孤食」や「個食」の傾向が強まっているといわれています。そのため保育園では、「食」を保育の一環としてとらえ、栄養バランスを図るだけではなく、将来にわたって豊かな食生活・食文化を作り出していけるような基礎を培えるような工夫をしています。

具体的には3～5歳児は当園の給食スタイルとしてレストラン方式の給食を行っています。レストランスタイルとは、レストランの开店時間（11：30～13：00（食べ終わり））の間で子どもたちがお腹が空いて『食べたい！』と思った時に席につき、食事をとる形式です。時には事前に席の予約をする姿や、時計を見て遊びの時間を調整しながら食事の時間を決める姿が見られます。

各自朝食時間（生活リズム）の違いや、主活動時の運動量の違いがある中、自分のリズムにあったタイミングで食事ができるよう、空間設定的には遊びの要素を取り入れ、ランチルームをお店（レストラン）に見立てて、調理員はコックさん（シェフ）となりレストランの開店時間を設定して、保育者やお当番の子どもたちが店員さん（ウエイトレス）となり配膳を行うなどしながら食事を行うようにするため、給食室はただ単に調理している姿を見せるだけでなく、オープンキッチンの厨房としてのレイアウトになっています。

以前（一斉での「いただきます」「ごちそうさま」の食事スタイル）は、一定量を食べきれずに、食事の時間がゆううつだったり、食事がストレスだった子どもが「おなかすいた！食べたい！」と自分で感じて食べることで残食が少なくなりました。

また、食事の量は、最初の注文時には自分が食べたい量を注文し、初めの量が少なくても、おかわりを自由にできるようにする事で、完食し器が空になる事の達成感を味わいながら、競っておかわりをするなどし、個人差はありますが全体の食事量は増えています。

配膳のマナーについては、一人ひとりが席に付いた後、器を揃えて丁寧に配膳をすることで、配膳のマナーを学ぶきっかけをつくっています。日々自分が配膳してもらっている状態を意識付けさせる事により、他者への配膳時に無意識とマナーが身に付いているような姿が見られます。

（ルールやマナーは、無理な教え込みをしても効果があまりありません。）

※但し年長児は、11～12月頃より就学を見据えて決まった時間に食事を取るようになっていますが、家庭でも起きる時間や朝食時間のリズムがしっかりできるようご家庭でも協力をお願いしています。